みのりの秋

じめじめした梅雨期にくらべると秋は気持よい季節だ，ことに農家では稲をはじめいろいろな農作物の収穫期で，農良仕事にも一段と張合いが出るというもの，心配された冷害もなく，たいした台風にも見舞われずにすみ，今年も平年作を上廻り豊作ということ，生産者にかぎらず消費者としても大いに喜ぶべきことである。

本県は全国でも有数の穀倉地帯で，稲の作付面積は北海道，新潟県についで３番目，収穫量は約45万tで全国第９番目だが，作付面積が多い割合に収穫が少ないのは，陸稲の作付が全国平均で５％であるのに，本県では25％と反収の低い陸稲の作付が多いためだ。

県南，県西などの早場米地帯では稲刈も真盛り，早く政府に売り渡せば早出し奨励金もつくということで１日も早く俵にしたいわけだが，最近農村での人手不足はしんこくなもので，稲刈の人手をさがすのも非常に苦労するとのことである。それに物価値上げムードに影響されてか，手間代もうなぎのぼりで，農林省茨城統計調査事務所の調べたところによると，最高が土浦地方の１日２食付で1,000円，平均でも２食付800円というところそれでもなかなか働き手が集まらずみのりの秋を迎え喜こびとともに悩みも多いわけだ。日雇で来てくれる人が少なくなつた原因はいろいろ考えられようが，最も大きな原因は，やはり工場誘致等が進むにつれ，今までの日雇としての要員であつた。小規模経営の人達が，就業の機会に恵まれ，日雇よりは安定している近くの工場へ働きに行くようになつたためだろう。

このようなことから，すでに検討されている省力農業ということも，今後の農業経営の重要な問題となるであろう。

グ　ラ　フ　の　役　割

東京教育大学教授　美　濃　部　亮　吉

グラフというのは，いうまでもなく，統計の数字を図表化したものである。図表化するには，線で書くとか，棒を立てるとか，円を描くとか色々の方法があるが，要するに，数字では，目で見てすぐにはイメージの浮ばないものを，グラフにして直接に視覚に訴えようということを目的としたものである。

しかし，数字では，どうしても現わし得ないものが，グラフによつて示すことができるというものではない。いいかえれば，統計数字で示し得る限度が，グラフによつて拡大されるというものではない。だから，グラフは数字以上の働きをするものだとはいえないように思われる。

統計数字によくなれている人は，数字を見て，それが示している現象をただちに頭のなかに思い浮べることができるにちがいない。だから，統計を使いなれた人にはグラフの必要はないといつてよいだろう。

又，複雑な統計を，グラフで示すと，生の統計で示した場合以上に理解しにくくなる。グラフにして，効果があるのは，非常に簡単な統計に限られるといつてよい。

だから，グラフというのは，統計になれない人達に，ごくかんたんな統計を，視覚に訴えるという方法で示すことを目的としているといえるだろう。前にも述べたように，統計では示し得ないものを，グラフが示し得るということはあり得ない。だから，誰もが統計になれて，なまの数字の理解し得る能力を備えているようになればグラフは不要になるといつてもいいすぎではあるまい。

○　　○　　○

この点についていつも考えるのは，中学校及び高等学校の社会科の教科書を書く場合に，グラフを多く使う方がよいか，或いは，なまの統計数字をそう入した方がよいかということである。

従来の教科書の多くは，統計はできるだけグラフ化して示すという方針のようである。しかし，私は，中学校乃至高校においては，生徒に，できるだけなまの統計になれさせる習慣をつけることが必要なのではないかと思つている。だから，グラフ化した統計は，最小限にしてできるだけなまの統計を使うようにすべきだと考えている。

ことに，数字の入つていないグラフは，無意味に近いものではないだろうか。統計というものは，元来，数字によつて，現象の正確な姿を示すことを目的とするものである。従つて，数字の入つていないグラフからは，現象の正確な姿はつかめない。大ざつぱな，大体の姿しかつかむことができない。それはもはや統計であるとは，いえないのではないだろうか。

中学校・高校の社会科では，統計によつて現象の真実にして正確な姿を教えなければならないはずである。それだのに，数字の入つていないグラフを多く使つていることは，現象の大ざつぱな姿しか教えないということになると思われる。

○　　○　　○

だから，グラフというものは，結局，ＰＲのための道

具であるということになると思われる。近頃はデータのはんらん時代である。そして，データでありさえすれば正しいと考えられがちである。そのくせ，数字そのものは敬遠される。

こういう時代に，グラフは，有効なＰＲの道具であるといえる。とにかく，それは，データを表現している。そして，視覚を通じて大衆に訴える力をもつている。大衆は，かんたんに，グラフが示していることが，真実であると思つてしまう。だからこそ，グラフは，ＰＲの有力な武器として使われるのである。

○　　○　　○

勿論，グラフは，統計を正しく図表化したものでなければいけない。それは当然のことである。しかし，グラフは，元来がＰＲの武器である。従つて，グラフによつて示そうとしていることが，かんたんに，しかも，強力に相手に訴えられれば，それが最上のグラフだといえるのではないだろうか。

そうであるならば，数字が正しく表現されていさえすれば，そのほかには，グラフの書き方についてやかましい法則は一つもないといつてよいと思われる。

統計課人事異動

（7月15日 発令）

	（新）		（旧）
転入者			
労働統計係	主事	小室高成	県西振興事務所
〃	主事	中川昭典	医薬務課
人口統計係	主事補	渡辺洋子	庶務係
転出者			
県立長生院	主事	会沢精	労働統計係
水戸県税事務所	〃	高岡旗男	〃
退職	主事補	関操	人口統計係